

報告

第 23 回 北東 3 地域本部技術士交流研修会

羽二生 望

1. はじめに

新型コロナの影響で 2019 年以來 3 年ぶりの開催となった第 23 回北東 3 地域本部技術士交流研修会は、去る 2022 年 11 月 28 日(月)ホテル日航新潟で開催されました。

当日は来賓として日本技術士会寺井会長をお招きし、基調講演者のアハメドシャハリアル氏、東北本部の 10 名、北海道本部の 11 名を含めた参加者合計 50 名が集い、基調講演と各本部からの発表のプログラムが盛会のうちに行われました。北海道本部からは今回のメインテーマに合わせて、リージョナルステート研究委員会の 2 名による共同発表(代表登壇武智技術士)が行われました。

2. 交流研修会概要

本研修会は、全国 8 つの地域本部の内、地域の自然、文化、産業構造が類似する北東地域(=東北・北陸・北海道本部)で活動する技術士が、地縁技術の掘り起こしや共通に抱える課題・成果について情報交換を行い、北東地域の発展に寄与することを目的として、平成 10 年度から毎年 3 地域本部が持ち回りで開催しており、この第 23 回が北陸本部の主催で開催されました。今回は「ポストコロナ時代におけ

る持続可能な地域社会の創出～技術者の果たす役割～]と題して、各地域・各業界が共通に抱える“ポストコロナ”を念頭に置いた様々な切り口からの課題と、その解決に向けた取り組みを主題とした発表がありました。

研修会の冒頭は、主催本部の平野北陸本部長による開会のご挨拶に続き、来賓の寺井会長、大熊北海道本部長、熊谷東北本部長よりそれぞれご挨拶を戴いたのち、公立大学法人三条市立大学学長アハメドシャハリアル氏による基調講演と 3 地域本部から計 5 題(北海道 1 題・共同発表、東北 2 題、北陸 2 題)の発表が行われました。



写真-1 研修会風景



写真-2
平野本部長
(北陸本部・開会挨拶)



写真-3
寺井会長
(統括本部・来賓挨拶)



写真-4
大熊本部長
(北海道本部)



写真-5
熊谷本部長
(東北本部)

《研修会プログラム》

- メインテーマ：ポストコロナ時代における持続可能な地域社会の創出 ～技術者の果たす役割～

【基調講演】

- 地域の特性を生かした三条市立大学の学び

公立大学法人三条市立大学 理事長・学長
アハメドシャハリアル氏

【研修発表】

- ポストコロナ時代での新たな課題(北海道本部)

北海道本部・リージョナルステート研究委員会幹事長

《登壇発表》武智 弘明氏
(武智技術士事務所)

北海道本部・リージョナルステート研究委員会幹事
安田伸生氏
(防災地質工業株式会社)

- ポストコロナ時代の男女共同参画社会とは(東北本部 1)

東北本部・男女共同参画推進委員会委員長
石川弘子氏
(月の泉技術士事務所)

- デジタル時代のコミュニケーション課題(東北本部 2)

東北本部・幹事 今村隆弘氏
(株式会社復建技術コンサルタント)

- 地域産業の発展に向けた取り組み(北陸本部 1)

～イノベーションを起こし続けるモノづくりのまち燕三条～

北陸本部・幹事 佐藤一男氏
(公益財団法人燕三条地場産業振興センター)

- ポストコロナ時代の省エネ換気(北陸本部 2)

～市中感染状況に応じた換気制御の研究開発～

北陸本部・倫理委員会副委員長 高野康夫氏
(菱機工業株式会社)

本研修会終了後は、同ホテル内で会場を移しての交流会も行われました。

3. 基調講演(アハメドシャハリアル氏)

- 地域の特性を生かした三条市立大学の学び

新潟市と長岡市に挟まれた新潟県中央域に位置する三条市に、2021年4月に開学された三条市立大学において、アハメドシャハリアル氏は開学に先立つ2016年当時から大学設立の検討委員会に参画してそのプロジェクトをリードし、初代学長(理事長兼務)として現在に至ります。

本学には工学部に技術・経営工学科が設置され、

基調講演では、その創立目的と目指す二つのミッション、そのための人材育成像と基本的考え方、具体的な学修方法が紹介されました。また、特に重視する地域とのコラボレーション(企業122社との産学連携実習や学際的研究協力、相互教育環境の形成等)の形として、具体には地域連携キャリアセンターを介した燕三条産業クラスタとの連携(共同研究、受託研究、企業支援、専門人材の供給etc)についての事例や、株式会社スノーピークス代表取締役社長・山井太氏を講師として招聘した新設寄附講座“イノベーションを創出するビジネスリーダー養成講座”などが紹介されました。



写真-6 基調講演の様子

4. 各本部の研修発表

4.1 北海道本部発表(武智技術士・安田技術士)

- ポストコロナ時代での新たな課題

《発表要旨》(代表登壇・武智技術士)

人々が集い、賑やかな街が活性化に重要と考えてきたが、新型コロナ感染を経て、「孤」や「分散」が求められる変化が生じた。これまで「まちづくり」は人口減少や交通、商業面から考察してきた例が多く、「賑わい」のための集客装置は百貨店



写真-7 武智技術士

や駅であった。しかし、今日の集客装置は何と考えるべきか、あるいは集客は不要なのか。

自治体の脆弱さが垣間見られているが、官民間わず動かすマンパワーが減衰しつつあると感じる。「人づくり」は重要で、特に小町村の建設部門は職員が足りない。行政面での課題のいくつかは部門間の壁に由来するものがあり、そして、行政でのDXに

ついでに課題に関しても、連携・総合化した視点から取り組まねば解決が出来ないと考える。

今後は得意とする専門分野を持ち、かつ多くの分野に対応できる知識・感性と広いネットワーク・人脈を有する“マルチ技術士”が他分野連携・総合化に技術的貢献を果たしていくことが望まれる。

4.2 東北本部発表 I (石川技術士)

●ポストコロナ時代の男女共同参画社会とは 《発表要旨》

コロナ禍では、もともと存在した諸問題が社会的に不利な立場にある者に、より顕著な影響となって露呈したと言われており、特に日本では、女性への負の効果が顕在化した。そもそも日本のジェンダーギャップ指数は2006年以降、低い水準で推移している。日本のジェンダーギャップをなくすには、女性の正規労働参加を促すとともに、男性の家事労働参加を促す必要がある。



写真-8 石川技術士

ポストコロナ時代における持続可能な地域社会の創設に向けて、テレワークの推進、地方在住者のアドバンテージの認識、制度や意識の見直しといった観点から、技術者の果たす役割として、地域社会で快適に暮らす技術の開発、地域産業の活性化の支援、新しい制度の立案や策定の支援、人的交流の活性化、秩序ある社会の構築の下支え等が挙げられる。

4.3 東北本部発表 II (今村技術士)

●デジタル時代のコミュニケーション課題 ～復権技術コンサルタントの例～ 《発表要旨》

長期にわたり、今なお出口の見えないコロナ禍により、一時期移動制限や対面の自粛が余儀なくされたことを背景に、急激に進んだオンラインの活用による Web 会議やテレワークが、距離や時間を克服するものとして欠かせないものになった。また、DX 推進は国の施策であると同時に、企業における生産性向上、業務の効率化や働き方改革の重要な位

置づけとなった。

様々な恩恵をもたらしたオンライン普及に伴い、当社で発生したミス・トラブルを例に、それらの原因を踏まえて、デジタル社会におけるコミュニケーションのあり方と、我々技術士が担うべき役割について考察する。



写真-9 今村技術士

ポストコロナ時代における技術士の役割としては、専門知識を活かし問題解決にあたるほか、若手の育成・技術者倫理、更には異分野との相互連携に貢献することが期待される。特に、コミュニケーションの場面において、言語・非言語の二つを上手く使って、受け取る側に「どのように伝わったか」に留意し、オンライン、メール、対面・接触型などの形態に拘らず適切な指導・アドバイスを行うことが、技術士として大切と考える。

4.4 北陸本部発表 I (佐藤技術士)

●地域産業の発展に向けた取り組み ～イノベーションを起こし続けるモノづくりのまち燕三条～ 《発表要旨》

燕市と三条市のモノづくりの起源は、両市とも江戸時代初期(西暦1620年代)の釘の製造にある。当時の代官が、度重なる信濃川の氾濫による水害で困っている人々を救済するため、農家の副業として釘の製造を燕三条に広めたとい



写真-10 佐藤技術士

う説があるが、正確なことはわかっていない。この後、江戸で起きた「明暦の大火(1957年)」による膨大な釘の需要を受け、副業ではなく鍛冶専門職人が生まれ集落が形成された。以来、燕三条では、時代の変遷とともにイノベーションを起こしながら、様々な製品を世に出し現在に至っている。ここでは、モノづくりのまち燕三条について、金属製品を中心とした加工技術の進化、産学官連携による開発

事例、地域の魅力を高めるための取り組みなどを紹介する。

当センターは、燕三条地域の産業を支援する機関として、“頑張る企業”を応援するとともに、地域の魅力を国内外に発信することで交流人口を増やし、地域産業の持続可能な発展に貢献したい。

4.5 北陸本部Ⅱ(高野技術士)

●ポストコロナ時代の省エネ換気(市中感染状況に応じた換気制御の研究開発)

《発表要旨》

従来の建築物の空調換気は、温熱環境・臭気・シックビル・知的生産性といった快適性向上を本分とする一方で、換気すればするほどエネルギーを損失するという省エネとのトレードオフの問題を抱えてきた。そこに今回のコロナ禍を契機



写真-11 高野技術士

に、換気的重要性があらためてフォーカスされたことにより、これに関わる技術者には、従来のCO₂濃度による省エネ考慮の換気制御に対して、コロナ禍では基準値未達に対する換気量増強を求める風潮が起こる一方で、感染対策としての妥当性のエビデンスが求められるが、ウイルス自体のセンシングが困難であることから、リアルタイムに屋内空間の感染リスクを捉える方法がまだ確立されていないという複合的課題が課せられた。

これに対する解決策(省エネと感染対策の両立)としては、省エネの観点からは、市中感染状況に応じた換気量制御を提案し、その制御運用の根拠となる、新たな感染リスク指標を設定し、従来のCO₂濃度による空気質評価との一体化を図った。

5. 交流会(意見交換会)

研修会終了後は会場を同ホテル別室に移し、交流会が開催されました。

会場の各テーブルでは、研修会に参加されたほぼ全員(49名)の皆さんが、今回の研修会テーマに関する認識をさらに深める意見交換や、日ごろ抱える

課題等について活発なコミュニケーションが図られていました。

その後も話は尽きないまま時間は経過し、名残を惜しみつつも、今後は新型コロナ対策への配慮が無用となって、次回以降も滞りなく開催できることを祈って交流会は中締めとなりました。



写真-12 交流会の様子

6. おわりに

今回の北東3地域本部技術士交流研修会は、2019年の東北本部主催(仙台)以降、2回の開催を見送り、今年2022年も新型コロナウイルスの感染動向からその実施を危ぶまれながらも、ようやく3年ぶりにめでたく再開の運びとなりました。実施の判断から研修会&交流会の会場での感染対策を含めて、主催された北陸本部執行部の皆様のご心労は、計り知れないものがあつたかとお察し申し上げます。

幸いにして会は滞りなく進行し、最後の交流会では、参加者の多くから久しぶりの会合を喜ぶ声が聞かれ、好評を博していました。

最後に重ねて、今回の研修会開催にあたり、企画・準備・運営に、多大なご苦勞をされたであろう北陸本部の皆様へ感謝の意を述べますとともに、今後の北東3地域の交流研修会が、ますます有意義なものとなることを祈念する次第です。また、本稿執筆にあたり、写真・資料等をご提供いただきました北陸本部事務局様のご協力に、厚く御礼申し上げます。(次回は、北海道本部主催・札幌開催の予定です!)

羽二生 望(はにう のぞむ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

日本技術士会北海道本部 幹事/事務局長
株式会社ドーコン 事業推進本部
e-mail:nh813@docon.jo

